



フードドライブ実施マニュアル

令和4年7月 札幌市環境局



フードドライブとは、家庭で使いきれない未使用の食品を持ち寄り、それらをまとめて必要としている団体（フードバンク等）に寄付する活動です。フードドライブは、また食べられるのに捨てられてしまういわゆる「食品ロス」を家庭から減らすための有効な方法です。

このマニュアルは、札幌市が令和3年度に実施したフードドライブモデル事業の結果を基に、実施の際のポイント・注意点等をまとめたものです。

フードドライブに興味はあっても、具体的な方法が分からなくてお困りの企業・団体の皆様の参考になれば幸いです。

目次

- 1 食品の寄付先を探す P1
- 2 食品をどう集めるか？ P2
- 3 集める食品の種類・条件を決める P3
- 4 必要な資材を用意する P4
- 5 実施の周知・広報を行う P5
- 6 実施当日の対応～食品引き渡し P6

1 食品の寄付先を探す

家庭から使わない食品を「集める」こと自体は、実はそれほど難しいことではありません。集めた食品を「寄付する先を探す」ことの方が重要です。

寄付先として、札幌市内には「フードバンク団体」や「子ども食堂」など、食品を必要としている団体がありますが、**必要としている食品の種類や規模などが団体によって異なります**。このため、寄付先を決めずに食品を集めると、引き取り先が見つからないまま賞味期限が到来し、使えなくなってしまいます。

まずは札幌市のホームページなどで寄付先の団体を探し、**どのような品目をどのくらいの量、引き取ってもらえるのか事前に確認**して、あらかじめ寄付先を決めましょう。集める食品の量・種類によっては、複数の団体と連携・協力することを検討しても良いでしょう。

表1. 食品の寄付先団体と特徴

寄付先	特徴
フードバンク	集める品目の設定や実施規模にもよりますが、フードドライブでは各家庭から様々な食品が集まるため少量多品種になりがちです。あくまで一般的な話ですが、フードバンクでは少量多品種でも受け取り可能なことが多いです。 ※食材をそのまま必要な人に渡す活動以外にも、自ら定期的にフードドライブのイベントを実施しているフードバンクもあります。
子ども食堂	札幌市内だけでも約80の子ども食堂が確認されています。フードドライブ活動を、集めた食品の使い先も含めて地域に根差したものにしたいとお考えの際は、子ども食堂への寄付は選択肢の一つです。 ※子ども食堂では、食材を調理した上で利用者に提供するところが多く、一度に大人数の食事を提供するところでは、少量しかない食材は使いづらいことがあります。

■ 札幌市公式ホームページ「フードドライブ」

<https://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/genryo/fooddrive.html>



寄付先団体への確認事項

- ① 寄付可能な食品の種類・量について確認しましょう。
- ② 食品引渡しの方法を確認しましょう。
- ③ 食品の引渡しにあたって書類のやり取り等の手続きの有無を確認しましょう。

2 食品をどう集めるか？

集まる食品の量やフードドライブに必要な人員は食品の「集め方」によって左右されます。常時集めるのか単発的に集めるのか？食品を募る対象をどうするか？食品の保管スペースはあるのか？

下表のポイントを参考に、「集め方」について、整理・検討しましょう。

表2. 食品の「集め方」を決める際に整理・検討が必要なポイント

ポイント	内容
実施形式	<ul style="list-style-type: none"> ● 常時集める：常設の食品受付窓口を設置して集める。 ● 定期的集める：「毎月〇日～〇日」、「毎月第3日曜日」など、決まった日にち・曜日等を実施する。 ● 単発的に集める：フードドライブイベントの開催等、期間限定で集める。
募集対象者	<p>食品を募る対象（フードドライブの実施を呼びかける対象）の範囲は、集まる食品の量に影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 限られた集団（職場や学校など）内において、そこに所属するメンバーのみを対象に募集する。 ● 広く一般を対象に募集する。
運営人員	<p>事前準備（物品などの用意）、実施の周知（広報物の作成・配布）、食品の受け取り※、食品のチェック、整理保管、食品の引渡し等に人員が必要になります。</p> <p>※受け取りは無人方式（回収ボックス等を設置しておく）でも可能ですが、回収ボックスが食品であふれないよう定期的な確認は必要です。なお、無人方式では回収対象外の食品が持ち込まれるおそれがあります。</p>
保管場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 受付場所に置くことのできる量以上が持ち込まれることも想定し、受付場所以外で食品を衛生的に保管できる場所を確保しておきましょう。運搬の手間を考えると、できるだけ受付場所の近くが望ましいです。 ● 保管場所は、食品衛生上の観点から、直射日光や雨の当たる場所、高温多湿になる場所は避け、関係者以外でも立ち入ることが可能な場所の場合は、施錠できる部屋にしましょう。 ● 食品の種類ごとに仕分けする場合は、仕分け作業に必要なスペースも必要です。

3 集める食品の種類・条件を決める

フードドライブでは、使えない（寄付先が必要としていない）食品が集まることは避けなければなりません。食品衛生上の問題が生じないように留意して、細かな品目や賞味期限など、寄付先の団体に受け入れ可能なものを確認して詳細を決めましょう。

表3. 集める食品の種類・条件を決める際のポイント

ポイント	内容
食品種別	<ul style="list-style-type: none"> ● 「賞味期限」表示の加工食品としましょう。 <p>※生鮮食品（野菜、肉、魚など）は鮮度の見極めが困難です。また、加工食品であっても「消費期限」表示のもの（惣菜など）は、期限を過ぎると劣化が進むため、食中毒事故につながりかねません。</p>
保存方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 「常温保存可能なもの」にしましょう。 <p>※冷蔵・冷凍保存が必要な食品は、持ち込まれるまでに家庭において定められた温度以下で保存されていたことの担保がとれないので避けた方が良いでしょう。また、冷蔵庫・冷凍庫をフードドライブ会場で準備できたとしても、予想を上回る量が集まって冷蔵庫・冷凍庫に入りきらなくなり、常温放置して食品を劣化させれば食中毒事故につながるおそれがあります。</p>
品目設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な対象品目（「お米」「乾燥パスタ」「缶ジュース」「フリーズドライ食品」など）を設定しましょう。 <p>※対象としない品目も具体的に定めましょう。寄付先に聞いて決めることとなりますが、例えば、「アルコール飲料」「サプリメント」「手作り品」など。</p>
賞味期限	<ul style="list-style-type: none"> ● 「賞味期限まで〇か月以上あるもの」等、具体的に決めましょう。 <p>※賞味期限までどのくらいあれば良いかは、寄付先の団体と調整して決めましょう。1か月以上（又は、2か月以上）とするのが一般的です。また、期限表示では無いお米の場合は、例えば「精米から2か月以内」、期限表示の無い塩や砂糖は、例えば「購入から1年未満」等が考えられます。いずれも寄付先に聞いて決めましょう。</p>
開封状態	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品表示（製造者や原材料、賞味期限など）が記載された未開封の包装に入ったものにしましょう。 <p>※包装が開封され、食品がむき出しになったものは衛生上の問題が懸念されますので対象外としましょう。なお、包装が開封されていても、中でさらに小袋に入っていて食品はむき出しになっていない場合ですが、これも募集対象とするのは避けた方が良いでしょう。小袋が未開封でも、その小袋が確かに開封済の外袋の中身であることの担保がとれないためです。万が一、別の外袋に入っていた場合は、食物アレルギーなど命に関わる事故も起きかねません。</p>

4 必要な資材を用意する

フードドライブで準備する資材として最低限必要なものは、「食品を入れて保管・運搬するための箱（ダンボール箱等）」です。

その他、必要に応じて用意する資材等と合わせて以下の表にまとめました。

表4. 準備する資材等の例

資材等	内容
食品を保管する箱	集めた食品を入れたり、寄付先に運ぶための箱が必要です。折り畳み式のコンテナボックスのように繰り返し使える入れ物でも良いですし、そのまま寄付先に引き渡して返却の必要が無い「ダンボール箱」も便利です。
台車	食品（特に缶詰や飲料等）が詰まった箱は思いのほか重量があります。保管場所への移動や、引渡しのため駐車場の車まで運搬する作業などに「台車」があると便利です。
机や台、椅子等	食品の受付場所で使う場合は必要です。
「看板」 や 「のぼり」	実施場所が目にとまりやすくなります。 ※札幌市では、「フードドライブ実施中」と書いた「のぼり旗」の貸し出しを行っています。詳しくは、札幌市公式ホームページ（本マニュアル1ページ参照）をご覧ください。なお、のぼり旗のみの貸し出しで、ポールとスタンドは付属しません。
はかり (体重計など)	集まった食品を計量する場合は必要です。電卓もあると良いでしょう。

集まった食品の仕分け（分類）や計量は必要？

- 仕分け・計量作業は、それなりに手間もかかりますので、寄付先から仕分けや計量を行った上で引き渡すよう求められない限りはやらなくてもよいでしょう。なお、「フードドライブの数量実績を記録したい」「持ち込まれる食品の傾向をつかみたい」等の目的があれば行ってもよいでしょう。
- 仕分ける場合は、より多くの箱が必要となりますのでご注意ください。なお、仕分け用紙を保管用の箱に貼ると見分けやすくなります。札幌市環境局が作成した仕分け用紙データを札幌市公式ホームページ（本マニュアル1ページ参照）に掲載しています。
- 計量する場合は、数量記録用紙等を準備しておきましょう。なお、食品の提供元を明確にしておきたい場合は、受付名簿等も用意すると良いでしょう。



5 実施の周知・広報を行う

せっかく準備をしても、フードドライブを実施することが知られていなければ、食品は集まりません。特に単発的に実施する場合は、十分な周知期間を設けた方が良いでしょう。

ホームページへの掲載やチラシ等を作成し、必要な広報（マスコミへの情報提供等）を行いましょう。問合せ対応の負担を減らすため、対象品目や賞味期限、受付できない食品などの注意事項をできるだけ詳しく記載しましょう。

【参考】札幌市環境局でフードドライブを行った際に作成したチラシ

1,800枚作成し、市有施設などで配布しました。チラシデータは、札幌市公式ホームページ（本マニュアル1ページ参照）に参考として掲載しています。

ご家庭で眠っている未開封の食品はありませんか?

家庭から出る食品ロス削減のため

「フードドライブ」を実施します!!

募集期間
令和3年10月25日(月)~29日(金)
10:00~16:00まで

受付場所
札幌市役所本庁舎1階ロビー(中央区北1条西2丁目)

お持ちいただきたい食品

- ※お米 ※お菓子 ※乾麺(パスタ、そうめんなど)
- ※缶詰 ※レトルト食品
- ※フリーズドライ食品
- ※インスタント食品(スープなど)
- ※ジュース ※調味料 ※のり ※ふりかけ など

賞味期限が記載されていて、残り期間が2か月以上あるもの
(お米は精米してから2か月以内)
常温保存が可能なもの
未開封で、包装が破れていないもの
食品に記載されている方法で保存されていたもの

お引き受けできない食品

- × 生鮮食品
- × 冷凍食品
- × アルコール飲料
- × サプリメント
- × 食品表示、賞味期限の記載のないもの
- × お米等の食糧類

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止する場合があります。最新情報は札幌市公式ホームページなどでご確認ください。

当日の流れや注意事項、詳細は本チラシの裏面をご覧ください

SAPP-RO 100% Think Green

SAPP-RO

フードドライブとは?

ご家庭で使いきれない未開封の食品を、必要としている団体に寄付する活動です。

当日の流れ

受付期間内に会場へ食品をお持ちください。

- ※事前申し込み等はありません。
- ※食品ロス削減のための事業です。寄付のために新たに購入することはご遠慮ください。

受付にて寄付品を確認させていただいて、終了です。

- ※募集対象外のもの(衣類等)はお受けできません。お手数ですがお持ち帰りにお願いします。

注意事項

- ・食品は手渡しでの受け取りのみとします。送付等は受けられません。
- ・提供先の指定、受領書等の発行はできません。

集まった食品について

- ・集まった食品は、こども食堂北海道ネットワークと協働し希望する市内の子ども食堂に提供する他、公財)札幌国際プラザの「いまできることプロジェクト」を通して、外国人の方々へ提供します。
- ・集まった食品の個別配布は行いません。

このフードドライブは、札幌市環境局が、家庭から出る食品ロスを減らすためのモデル事業として実施します。

本事業に関するお問い合わせ
札幌市環境局環境事業部 循環型社会推進課 ☎011-211-2928
<https://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/genryo/fooddrive.html>

募集対象外の食品が持ち込まれないために

- 募集対象の食品の基準を明確にして周知することが大切なのは、問合せ対応の負担軽減だけでなく、募集対象外の食品が持ち込まれる事態を避けるためでもあります。
- 「募集対象外の食品」 = 「寄付先で引き取ってもらえない」ので、受け取っても行き場がないため、基本的にはお持ち帰りいただくことになります。
- 重たい食品だと持って帰るのは大変ですから、フードドライブに対する印象が悪くなってしまいかねません。募集対象食品の基準は分かりやすく明確に周知しましょう。

6 実施当日の対応～食品引き渡し

食品が持ち込まれたら、募集対象の基準に適合しているかを確認して受け取りましょう。

集まった食品は、事前に決めておいた方法で寄付先の団体へ引き渡しましょう。引き渡しまで保管しなければならない場合は、施設できる場所に保管しましょう。

最後に、札幌市が実施したフードドライブ当日に準備したものや流れを一例としてご紹介します。なお、実施結果の詳細は、札幌市公式ホームページ（本マニュアル1ページ参照）に掲載していますので必要に応じてご参照ください。

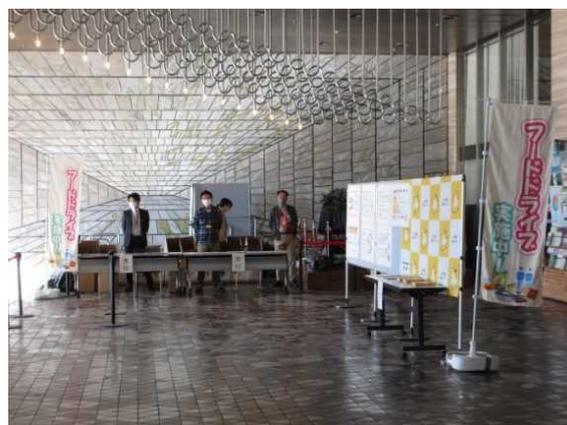
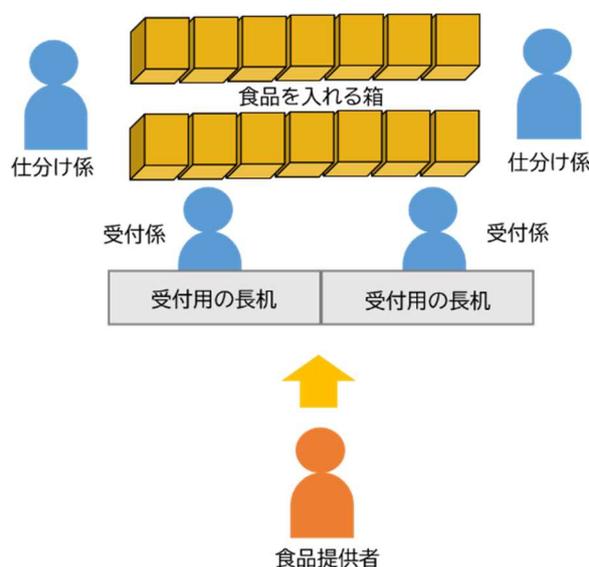
【参考】札幌市環境局が行ったフードドライブイベントでの作業内容等

(1) 当日準備（使用）したもの

※同時開催のパネル展に使用したものを除く

品名	個数
受付用テーブル（長机）	2本
イス（パイプイス）	4脚
受付品記録用紙	日数分
のぼり（設置台含む）	2本
仕切り用パーテーション	8本
ダンボール箱	約60箱
仕分け用表示（「お米」「乾麺」「缶詰め」等）	10種類
デジタル体重計	1個
引渡し品記録用紙	日数分
台車	1台
筆記用具・ガムテープ	適量

(2) 会場レイアウト



(3) 従事した人数

開催期間（5日間）中 常時4人

(4) 各担当の業務の流れ（※一例としてお読みください）

担 当	業務の流れ
受 付 (2人)	①市民から食品を受け取り、募集対象の基準に適合しているかを確認 ↓ ②受付一人分毎に食品をダンボール箱へ入れる。 ↓ ③後方（仕分け担当）へダンボール箱を渡す
仕分け (2人)	①一箱ずつ（受付一人分ずつ）種別毎の個数を数え、必要に応じて計量 ↓ ②「受付品記録用紙」に記入 ↓ ③種別毎に仕分け済ダンボール箱へ投入 ↓ ④空になったダンボール箱を受付横へ戻す

(5) 団体への引渡し方（※引き渡し先・方法も含めて、一例としてお読みください。）

団体	引渡し方と流れ
各子ども食堂	開催期間中の夕方、各子ども食堂に引き取りに来てもらう ～流れ（期間中繰り返し）～ ①仕分け済みの箱から引き取るものを選んでもらう ↓ ②手の空いている担当で種別ごとに計量 ↓ ③「引渡し表」に種別ごとの重量を記入し子ども食堂へ渡す ↓ ④残りの食品を箱ごと別室へ運搬、保管 ↓ ⑤翌日の開催前に別室から持ち込み提供品置き場へ
札幌国際プラザ	期間終了後、全量を札幌国際プラザ事務室へ持っていく ～流れ～ ①引渡しの日程について札幌国際プラザと調整 ↓ ②おおよその量を伝えたうえで引渡日まで別室で保管 ↓ ③引渡日に札幌国際プラザ事務室へ運搬、引渡し

このマニュアルについてのお問い合わせ先

札幌市環境局循環型社会推進課 TEL：011-211-2928